

1. 幸いなことよ。
全き道を行く人々、主のみおしえによって歩む人々。
2. 幸いなことよ。
主のさとしを守り、心を尽くして主を尋ね求める人々。
3. まことに、彼らは不正を行なわず、主の道を歩む。
4. あなたは堅く守るべき戒めを仰せつけられた。
5. どうか、私の道を堅くしてください。
あなたのおきてを守るように。
6. そうすれば、私はあなたのすべての仰せを見ても恥じることがないでしょう。
7. あなたの義のさばきを学ぶとき、私は直ぐな心であなたに感謝します。
8. 私は、あなたのおきてを守ります。
どうか私を、見捨てないでください。

1. 幸いなことよ。
全き道を行く人々、主のみおしえによって歩む人々。

hwyt>trAtB. ~yki hb; %rd'-ymnt. ywa;

Qal.pt. 「道%rd」: 神のトーラーによって示された生活規範。

~ymt': 完全な、無傷の、無実の、真理と事実に照らして完全な、健全な

「みおしえ hr'Al」: 範囲の広い教えのことで、神の教え、人の教えの両方に。教えの全体、律法、モーセ五書等を指す。

2. 幸いなことよ。
主のさとしを守り、心を尽くして主を尋ね求める人々。

Wwrdy b'lel kB. wtd'eyrenOywa;

「さとし hd'e」: 確認するという意味で、道徳的宗教的義務についての明確な証言。

vrD': ひたすら探し求める、頼る、訴える、頼りにする、(専門家に)意見を求める、問い合わせる、調査する、研究する

Qal.Impf.

Qal.pt. 守る、監視する、じっと見る

3. まことに、彼らは不正を行なわず、主の道を歩む。

Wlh' wkr'dBi

hl'w; W [p-al} @a;

Qal.Pf. go 「道%rd」: 神のトーラーによって示された生活規範。

unjust Qal.Pf do **also, indeed, really**

4. あなたは堅く守るべき戒めを仰せつけられた。

`dam rmvli ^ydQpi htyWi hTa;

hvc' : Pi.Pf. command charge (請求する、要求する)

「戒め dWp」: 詩篇だけに見られる詩的用語。主から委託された事柄か。

5. どうか、私の道を堅くしてください。

あなたのおきてを守るように。

^yQxurmvli ykrd>Wkyl xh;

ああ!

!WK : Ni. Impf. be set up, established 不動とする 揺るがぬものとする

「道 %rD」: 神のトーラーによって示された生活規範。

「おきて QX0 : 刻み付けられたもの、刻印されたもの。

6. そうすれば、私はあなたのすべての仰せを見ても恥じることがないでしょう。

^ytmil K-la, yj yBhB. vAbaeal{ za'

その時

vAB : Qal. Impf. be ashamed

j bnl' : Hi. inf. 見る

「仰せ hvcmi : 権威ある明確な命令。

7. あなたの義のさばきを学ぶとき、私は直ぐな心であなたに感謝します。

^qdai yj Pvmi yHl B. bbl ervyB. ^dAa

「さばき j Pvmi : 意味多様。法的決定、慣例、主の法的行為等。

dml' : Qal. inf. learn

真っ直ぐな hdy' : Hi. Impf. 感謝する

8. 私は、あなたのおきてを守ります。

どうか私を、見捨てないでください。

`dam-d [; ybz[; la;

rnva ^yQuta,

up to abundance, to a great , degree, exceedingly.

「おきて QX0 : 刻み付けられたもの、刻印されたもの。定め、制定、命令

bz[: Qal. Impf. forsake, leave

rMV : Qal. Impf. 守る

説教

詩篇 119 篇は 8 節ずつからなる 22 の段落に分けられます。

それぞれ 22 の段落の分は

それぞれ「アレフ a」「ベツ B」（英語で言うと A,B）という具合に、ヘブル語アルファベットの各文字が八つづつズラッと実に見事に冒頭に並んでいて、各段落をそれぞれ「アレフ a 詩篇」「ベツ詩篇」などと呼んでいます。

（22×8 で）全篇 176 節からなる、詩篇の中で最も壮大かつ長いものですが、主題は極めて明確で、この詩篇全篇の中心テーマは神のことばです。神のことばが私たちの人生にいかに決定的なものであるかが歌われているのです。それで各節の文には

「みおしえ hrAT」、「さとし hd[e、「戒め dWp」、「おきて qxq、「仰せ hveml、「さばき jPvml、「ことば rbd」、「ことば hrmai、「道 %rD xraq という十のことばが入れ替わり立ち替わりほぼ必ず使われて、私たちの人生に神のことばがどんなに大切であるかが強調されます。各段落に於ける内容は

人生に於ける神のことばの中心性、
神のことばに対する信仰者の姿勢、
以上を受けての詩人の個人的な告白・証しという、これら三点がパターン化して歌われています。

1 - 8 節は「アレフ a 詩篇」で、ヘブル語本文では冒頭に a の文字がズラッと並びます。

ここで「神のことば」を表現する言葉も前述した十の言葉中、

「ことば^{ダーバル}rbd」、「ことば^{イムラー}hrmai」、「道^{オラフ}xraq を除く七つの言葉が登場します。

まず詩人は最初にどのような人がこの世で最も幸いな人間であることを説明します。

- 1 . 幸いなことよ。
全き道^{ダーク}を行く人々、主のみおしえ^{ミシエ}によって歩む人々。
- 2 . 幸いなことよ。
主のさとし^{サトシ}を守り、心を尽くして主を尋ね求める人々。

この世で最も幸いな者は、社会的な地位のある人間ではない、金持ちでもない、「全き道を行く人々」です。

「全き道（『健全な道』とも訳せる）を行く」とはどういうことでしょうか。

それは「主のみおしえによって歩む」ことです。

別の表現で言うならば、

「主のさとしを守り

(『じっと見る、監視する』の意味)、

心を尽くして主を尋ね求める

(『ひたすら探し求める、頼る、訴える、頼りにする、意見を求める、問い合わせる、調査する、研究する』の意味)」ことです。

つまり、

自分の力や知恵に頼まずに、

ひたすら神さまに寄り頼んで、神さまに聴いて、神さまのみことばから人生の指針を得ようと、力一杯努力する人のことです。

詩人は、そのような人が「幸いなことよ」と言うのでした。

ここで注意しなければならないことがあります。

私たちは、よく「全き道を行く人々」というと、

非の打ち所のない完璧な人間を思い浮かべるのですが、

少なくとも詩人の想定している「全き道を行く人々」は違います。

詩人がここで表現していることは、

完璧に神の**ことば**を「行っている」人間の**こと**ではなくて、

「そうなるうとしている」、「そうなるうと努力している」人間の**こと**です。

日々自分の罪を悔い改めて、主のみおしえに従おうとしている人の**こと**です。

そして、そのような人が結果的に「不正を行なわず、主の道歩む。」(3)と言います。

3. まことに、彼らは不正を行なわず、主の道を歩む。

ただし、ここで詩人の言う「主のみおしえ」(1)とは、何か漠然とした「神の**ことば**」のことではありません。

センチメンタルな感情でこんな告白をしているのではありません。

「主のみおしえ」の意味はヘブル語原文を読むとはっきりしています。

「主のみおしえ」と訳されている言葉は「主の^{トラー}hr'Al」、です。

すなわち、主の律法のことです。

十戒を中心とした神の教えのことです。

それで、次の四節ではこう言います。

4. あなたは堅く守るべき戒めを仰せつけられた。

すると、詩人は、

一般論、他人事ではなく、

自分自身が神の律法を守って「幸い」となりうるのか考えて突然恐れをなしたのか、詩人は感情をむき出しに神さまに祈り求めます。

5. どうか、私の道を堅くしてください。

あなたのおきてを守るように。

「直訳は、『ああ、あなたの定めを守るよう、私の道を不動のもの(揺るがぬもの)としてください。』」

つまり、自分が神の律法を守る生活を送ることを考えると、

いくら努力目標とはいえ、自分の力ではあまりに非力なため、神さまの100%全面的な助けを乞い願ったのでした。

そして、神さまの助けによって自分自身が「不動のものとされた時」、次のようになると自分の信仰を告白するのです。

「その時、私はあなたのすべての権威ある命令を見ても恥じ入ることがないでしょう。(6節直訳)」

たとえ神さまのさばきを受けても、

「あなたの義のさばきを学ぶ時、私は直ぐな心であなたに感謝するでしょう。(7節直訳)」

そうして

「私は、あなたの定めを守るでしょう。(8節直訳)」

1-3節は、「幸いなことよ、...幸いなことよ」と、詩人は涼しくあくまで一般論を述べました。

4-5節は、「あなたは」と、

自分に向けられた神さまの取り扱い、

すなわち、自分に神さまが与えてくださった「堅く守るべき戒め」を受けて、

自分がそれを守ることができるよう、自分を強めてくれと切に願い祈りました。

そして、6-8節では、神さまの全面的な助けによって、自分自身がこうなるという詩人の個人的な信仰を告白しているのです。

もしも神さまが自分の信仰を揺るがぬものとしてくださったならば、

「どんな神さまの命令を見ても恥じ入ることがない」

「神さまの義のさばきを受けても、心ねじ曲げずに感謝して」

そうして「その結果、神さまの定めを守り行うようになるでしょう」と言うのです。

問題は神の恵みです。

自分の力ではありません。

自分の知恵でもありません。

自分の経験や能力によるのでもありません。

神さまの恵みです。

神さまが私の信仰を「揺るがぬもの」としてくだされば

恐れず、どんな試練が待ち受けていても、いつも感謝して、神さまのみこころを行って生きていくことができるでしょう。

でも、そうでなければ、

いつもビクビクして、感謝もなく暗く、神さまに「酷く見捨てられて」、呪われた人生を生きなければなりません。

「幸いなことよ」じゃなくて、

「災いなるかな」という人生を生きなければなりません。

「不正を行って」、「神のさばきを受けて」、暗く、「恥ずかしい」人生を生きなければなりません。

私は洗礼を受けてクリスチャンになった時、こう思いました。

どうせクリスチャンとして生きるなら、本物のクリスチャンになりたい。

パワーアップして、ストロングクリスチャンになって、本物のクリスチャン人生を生きていきたい。

世の鼻つまみ者のように、申し訳なさそうに小さくなって生きるのではなくて、世に影響を与えるクリスチャンになりたい。

それで、結果的に、神さまの100%の全面的な恵みによって、その直ぐ直後に神学校に行って、今は牧師として奉仕しています。

この詩人も神さまにパワーアップを祈りました。

自分の信仰を「不動のもの」としてくださいと神さまに祈りました。

「揺るがないもの」としてくださいと祈りました。

「揺るがない信仰」とは何でしょうか。

「不動の信仰」とは何でしょうか。

詩人が思い描いた理想のクリスチャンとはどのような姿なのでしょう。

世界最高の幸せ者とは誰なのでしょう。

それが、「全く道を行く人」です。

「主のみおしえによって歩む人々」です。

「主のさとしを守り、心を尽くして主を尋ね求める人々」です。

主のトラーによって、主の律法を守り行う人、守り行うよう力一杯努力している人です。

神のことばが肝心なのです。

神のことばにいのちがあります。

神のことばには力があります。

世に打ち勝つ力があります。

罪に打ち勝つ力があります。

私たちが神さまを正しく知る唯一の道は聖書です。

基本的なことですが、

聖書を読む人は幸いなのです。

聖書を通読しましょう。

しかも、毎日聖書を通読しましょう。

プロテスタントには聖書しかないんです。

聖書がすべてです。

聖書を通読しないプロテスタント信者というのはあり得ません。

聖書を読まずに、幸いなクリスチャン生活はあり得ません。

聖書を読まずに、クリスチャンとして成長することはできません。

聖書は、私たちに、神さまを正しく知らせてくれます。

聖書は、私たちを、神のみこころを行って生きる者としてくれます

私たちを慰め、励まし、力づけ、強めてくれます。

私たちの信仰を不動のものとしてくれます。

揺るがぬものとしてくれます。

あらゆる困難に打ち勝たせてくれるのです。

どんなに困難なことがあっても、私たちに喜びと感謝と希望を与えて、喜んで主のみこころを行う者としてくれます。

ここに集うみなさんが、聖書をよく読み、神さまのみこころを行って、幸いな人生を生きて行かれるよう祈ります。

この詩篇は、22文字のヘブル語アルファベットの各文字を8節ずつ用いて176節にまとめ上げた巧みな構造から成っている。主題は「神の言葉への愛」であるが、詩人は言葉そのものを愛するのではない。

神の言葉としての律法が神の御旨を明確に告知している故に愛するのであって、まず神を愛する故にその言葉を愛し守るのである

「これは1つの支配的な中心点を持っており、作者の思想はこの点をめぐっている。すなわち、神の言葉と律法こそが生全体の決定的要因だということである。神の言葉と律法に言及しない節は一つもないくらいである。……この詩から律法の全『神学』がその理論面と実際面から見てとれる」(A・ヴァイザー)。

以上のように神の言葉に対する愛が主題であり、神の言葉に関する表現も多様であるが、その表現は10の言葉である。

「みおしえ hrʾl (ヘ トーラー)

範囲の広い教えのことで、神の教え、人の教えの両方に用いられる。教えの全体、律法、モーセ五書等を指す。

「さとし hdʿe (ヘ エーダー)、確認するという意味で、道徳的宗教的義務についての明確な証言。

「戒め dwp (ヘ ピックード)、詩篇だけに見られる詩的用語。主から委託された事柄か。

「おきて qx0 (ヘ ホーク)、刻み付けられたもの、刻印されたもの。

「仰せ hvʿni (ヘ ミツワー)、権威ある明確な命令。

「さばき j Pʿvni (ヘ ミシュパート)、意味多様。法的決定、慣例、主の法的行為等。

「ことば」(ヘ ダーバル)、確定的な definit 定められた神の意志表現 人に対する神の御旨(十戒=十の言葉)。

「ことば」(ヘ イムラー) 不確定的な indefinit 神の意志の自由性

「道」と訳されている2つの言葉 ヘ デレク %rD, 神のトーラーによって示された生活規範。

ヘ オーラフ xrao デレク %rD の詩的同義語

[注 解]

アーレフ(1 8)

主の教えに従うことが真の幸いの源である。この部分には 道 みおしえ さとし 戒め おきて 仰せ さばき という神の言葉に関する多様な表現が用いられていて、神の言葉への愛と熱心が表明されている。神の言葉の豊かさは神の豊かさを認めることであるが、しかも唯一の神である。1 4節は、主の言葉を受する者の幸い、5 8節は主の言葉を託された主のしもべたる者の自覚と祈りと言えよう

1節. 幸い は1:1参照

4節の 戒め は「委託物」としての神の言葉。それは 堅く守るべき 委託物である

7節. 義のさばき とは主の正しいおきて。それを学ぶことが感謝を増し加える。自分の足りなさ、未熟さ、不信仰、不勉強の自覚

が主の前での進歩と感謝とに導く（ロマ 11 : 33）

8 節 酷く見放さないください。

今日は 12 月 25 日、クリスマスです。

みなさん、クリスマスというのは何の日か知っていますか？

サンタさんが来る日ではありません。

サンタさんが来た家もあったかもしれませんが、

クリスマスというのは本来サンタさんの来る日なのではなく、イエスキリストさまがお生まれになったことを記念する日です。

イエスさまは今から約二千年前にお生まれになりました。

今年はイエスさまがお生まれになって二千五年目になるということで、西暦二千五年というのです。

2005 年というのは、キリスト降誕以降 2005 年経ったということを意味しているのです。